

形名	FHTS-41850-PD9
適合ランプ	東芝高周波点灯専用蛍光ランプ“メロウライン”(FHF32EX-N)
蓄電池	2-3NR-CY-LE-N

充電モニター
(充電表示灯) 付

このたびは東芝非常用照明器具・東芝階段通路誘導灯をお買いあげいただきましてまことにありがとうございました。お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。この器具は電子安定器を採用しておりますので、電源周波数に関係なくご使用できます。

- 照明機器の工事に関しては、電気工事の有資格者の施工管理が義務付けられています。

■安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになる方や他人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、商品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

- 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

工事店様へ

施工上のご注意

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- 器具の取り付けは、質量に耐える所に取扱説明書に従って行なってください。取り付けに不備があると器具落下、感電、火災等の原因となります。
- 電源線接続の際は、 器具本体の取り付け④に従って確実に行なってください。接続が不完全な場合は、接続不良による発熱、火災、感電の原因になります。

- アース工事は電気設備の技術基準に従い確実に行なってください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。

- 器具を改造したり、部品を変更して使用しないでください。器具落下、感電、火災等の原因となります。

アース工事

改造

- この器具は、腐食性ガス雰囲気場所には使用できません。そのまま使用しますと、変質、変色、絶縁不良、器具落下の原因となります。

腐食性ガス

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- この器具は屋内専用で、5℃～35℃の範囲で使用するよう設計してあります。高温で使用しますと火災の原因となります。屋外や湿気、水気のある場所で使用しますと、湿気の浸入による絶縁不良、感電の原因になります。

- 器具に表示された電源電圧(定格電圧±6%以内)以外の電圧でご使用しないでください。間違えて使用しますとランプ、安定器などの短寿命、火災の原因となります。(器具の定格電圧と電源電圧は器具を取付ける前に必ず確認してください。)

温度
屋外

電源電圧

⚠ お願い

- 器具は慎重に調整されています。取り付けの際、衝撃を与えないでください。
- この器具の電源は**昼夜連続給電**してください。
- 間引き点灯の場合は、分岐回路をもうけ、そのスイッチで消灯してください。
- この器具は蓄電池を内蔵しています。電源を通電しないまま、蓄電池のコネクターをつないで放置すると過放電状態になりますので、おやめください。
- 内蔵蓄電池は、ご使用前に48時間以上充電してからお使いください。電池は設置後通電し、充電しないと非常点灯しません。
- 工事が終了してから、使用開始されるまで時間がある場合は、消灯するまで蓄電池を放電させてください。その後、蓄電池のコネクターをはずし、保存してください。
- 点検信号線はシールド線CPEV-Sを使用してください。送り配線する場合はシールドアースを接続してください。器具と接触させないように絶縁処理してください。シールドアースを器具と接触させるとシステム誤作動の原因となります。

東芝非常用照明器具・誘導灯点検カード

設置	年	月	日	設置場所	点検責任者
点検年月日	点検箇所(チェック)	点検者	点検年月日	点検箇所(チェック)	点検者
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	
・	外観 切替 性能		・	外観 切替 性能	

充電モニター の保守、点検方法

- ① 充電モニターが点灯しているかどうか確認してください。
- ② 充電モニターが消灯している時は蓄電池が充電されていません。蓄電池のコネクターはずれ、平常電源の開放がないか確認してください。
- ③ 充電モニターが点灯しない原因がわからない時には、お買い求め先、または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにご連絡ください。

・お客さまはお読みになったあとも必ず保管してください。

お客様へ

使用上のご注意

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- ランプ交換の際は必ず非常電源を切ってから行なってください。
また、器具のお手入れの際は、必ず蓄電池のコネクターをはずし、非常電源を切ってから行なってください。感電の原因となります。
- ランプの端部が黒ずんだり、暗くなった時は、早めに交換してください。ランプ交換の際は、“メロウライン”（FHF32）とご指定ください。間違った種類・ワット(W)数のランプを使用した場合は、過熱により器具が変形、変色したり火災の原因となります。
（電源を入れた状態でランプ交換を行うと、ランプが点灯しない場合があります。）
- この器具に内蔵されている蓄電池を交換する際は、必ずコネクターをはずし、指定のものをご使用ください。
蓄電池の指定以外のものの使用、分解、リード線の切断は、短絡、感電、蓄電池破裂の原因となりますのでおめください。

電源を切つて

可燃物

確認してください
FHF32

Hf
ランプ専用

適合ランプ

適合電池

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定される内容を示します。

- 器具を清掃する際は、乾いたやわらかい布か、水で湿したやわらかい布をよく絞ってから拭いてください。
- 器具を清掃する際は、ソケット等の樹脂部には、水、洗剤、薬品などは使用しないでください。部品の劣化や感電の原因になります。
- ランプを清掃する際はランプを器具から外して乾いた布で拭いてください。

・照明器具には寿命があります。設置して10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。
点検・交換をおすすめします。

・1年に1回は「安全チェックシート」により自主点検、および定期的に工事店等の専門家による点検を実施してください。
（「安全チェックシート」は弊社ホームページに掲載しております。）

・点検せずに長時間使い続けるとまれに火災・感電・落下などに至る場合があります。

お願い

・ラジオ、ワイヤレス方式の機器は、なるべく照明器具から離してご使用ください。雑音が入る場合があります。

・3ヶ月に1回、定期的に非常点灯を行い点検カードにその結果を記入してください。
（下の点検カードを切り取って使用してください。）

・点検スイッチの引きひもを引きますと、非常電源に切り替わり、非常点灯を確認できます。

・定期点検の際の性能確認で点灯持続時間が60分以下の場合には、内蔵の蓄電池を交換してください。

・この製品には、ニカド蓄電池を使用しております。ニカド蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。電池の交換及びご使用済み製品の破棄に際しては、ニカド蓄電池のリサイクルにご協力ください。

・ランプ及び蓄電池以外の部品の交換は絶対におやめください。

・点灯装置の改造、部品の追加は絶対におやめください。

・蓄電池のヒューズ交換の際には、定格5Aを使用してください。

・長時間使用しないときは、消灯するまで蓄電池を放電させてください。その後、蓄電池のコネクターをはずし、保存してください。

・内蔵する蓄電池を有効に動作させるために、6ヶ月に1回充分な放電を行なってください。

・点灯装置の動作不良が生じた場合は、新しい器具と交換してください。

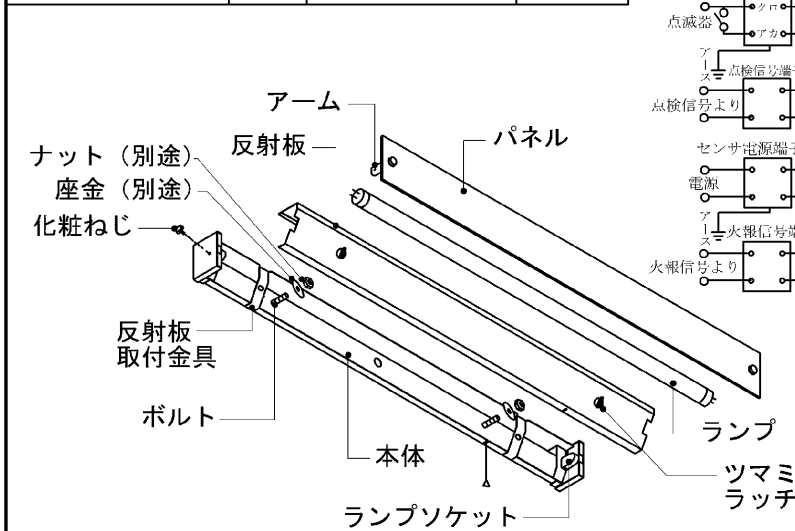
・この器具は高温多湿気中（140℃以上）で使用されたものは再使用できません。この場合は、新しい器具と交換してください。

Ni-Cd

ニカド電池のリサイクルにご協力をご使用済みのニカド電池は、貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力をお願いします。

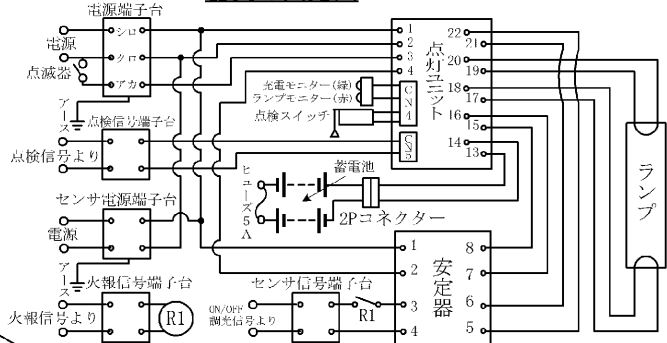
■各部のなまえ

器具質量		本体	カバー
FHTS-41850K-PD9	6.5kg	FHTS-41850-PD9	CO-4116
FHTS-41851K-PD9	7.5kg		CO-4117
FHTS-41852K-PD9	8.5kg		CO-4118
FHTS-41855K-PD9	6.5kg		CO-4119



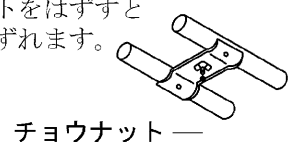
この取扱説明書は同種類の非常用照明器具・階段通路誘導灯と共通になっておりますので、お求めの器具と姿図がちがっている場合があります。

器具の回路図



蓄電池の交換方法

チョウナットをはずすと蓄電池がはずれます。

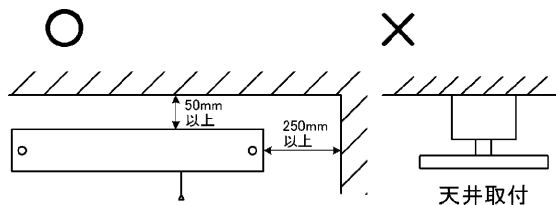


■器具の取り付けかた

1 器具の取り付け場所

器具の取り付けには右図のように天井及び、壁面からはなして取り付けてください。センサ、カバーの取り付けができません。

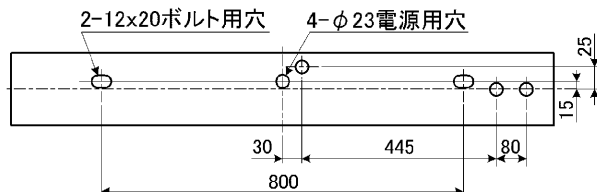
器具はセンサ検知範囲に合わせた場所に施工してください。センサ検知範囲については東芝人感センサユニット親機DF-20209又は子機DF-20209Y取扱説明書■センサユニットの設置をご覧ください。



天井取付

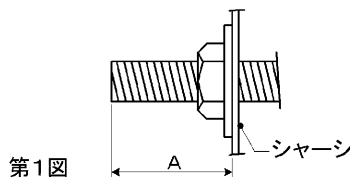
2 器具の取り付け寸法

背面仕様図



3 器具取付ボルト寸法

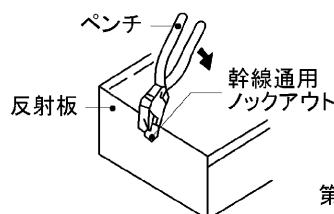
A寸法は、25mmを超えないようにしてください。



第1図

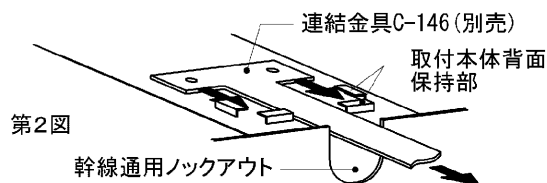
4 人感センサユニット（別売）の取り付けかた

① 器具本体又は反射板の幹線通用ノックアウト（両側）をペンチで切り離してください。（第1図）



第1図

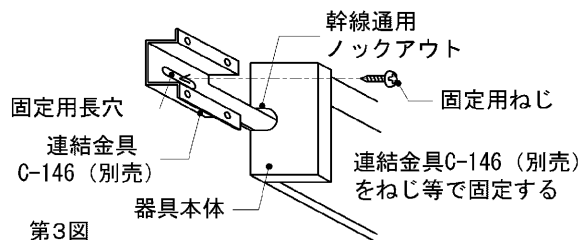
② 人感センサ連結金具C-146（別売）を器具本体背面両側の保持部に取り付けてください。（第2図）



第2図

③ 器具本体と人感センサ連結金具C-146（別売）を取付面に固定してください。（第3図）器具本体の取り付けは次順 ⑤ 器具本体の取り付けをご覧ください。

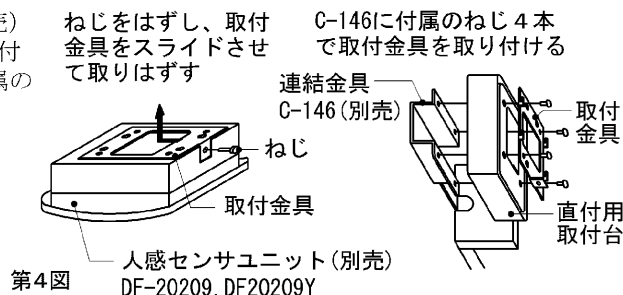
注）人感センサ連結金具C-146（別売）は固定用ねじで器具本体と平行に確実に取り付けてください。



第3図

④ 人感センサユニットDF-20209（別売）、DF-20209Y（別売）に固定されている取付金具のねじを取り外し、付属の直付用取付台と合わせ、センサ連結金具C-146（別売）に付属のねじ4本で固定します。（第4図）必ず取付金具ねじが下向きになるように取り付けてください。

不備がありますと、落下の原因となります。

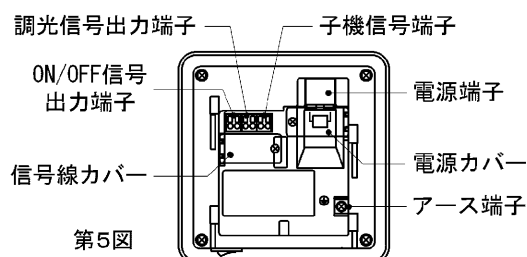


第4図

⑤ 人感センサユニットDF-20209（別売）の裏面の電源カバー、信号線カバーをはずし、各接続端子に人感センサ連結金具C-146（別売）に付属のVVFケーブル（3芯）を電源端子とアース端子へ、H I V電線（アカ）を調光信号端子、H I V電線（チャ）を子機信号端子へ接続し、電源カバー、信号線カバーを取り付けます。（第5図）

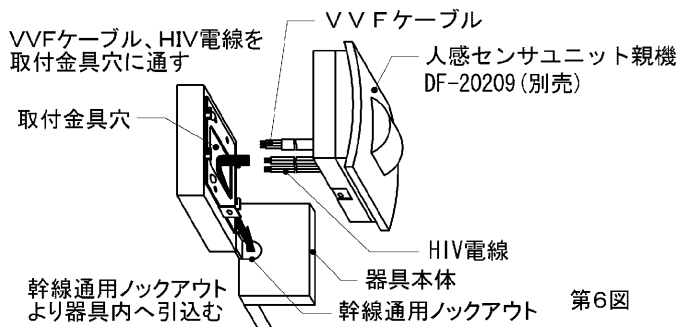
詳しくは東芝人感センサユニット親機DF-20209取扱説明書■取り付け方と配線をご覧ください。

不備がありますと、誤動作の原因となります。



第5図

- ⑥ ⑤で接続したVVFケーブル、HIV電線の片側を取付金具穴に通し、器具本体左側の幹線通用ノックアウトより器具内へ引き込み（第6図）、人感センサユニットDF-20209（別売）を取付金具にねじで確実に固定します。

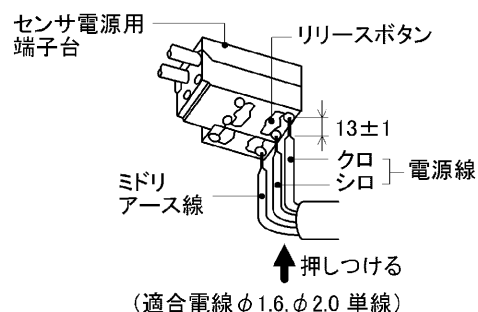


- ⑦ 器具内へ引き込んだVVFケーブル（3芯）を「センサ電源用」端子台へ、HIV電線（アカ）を「センサ信号用」端子台に確実に差し込んでください。（第7図）リリースする場合は、必ずリリースボタンをドライバーで押し込んで線を引き抜いてください。

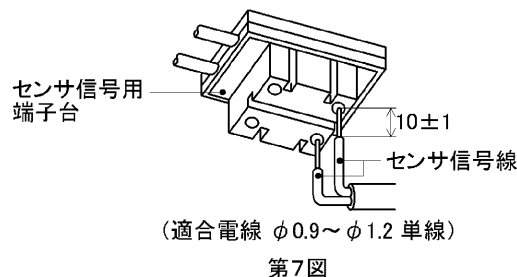
不完全な場合とリリースボタン以外を押した場合は、接続不良による発熱、火災、感電の原因となります。

端子台の容量は20Aです。

容量を超えると発熱、火災の原因になります。



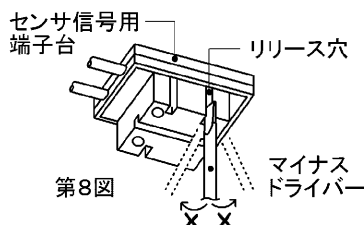
（適合電線φ1.6, φ2.0 単線）



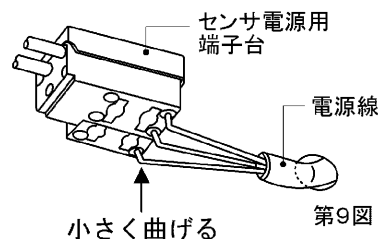
第7図

- (注) 1. ドライバーは端子台に垂直に押し込んでください。押し込み後、ドライバーを強く傾けると端子台が破損する場合があります。（第8図）

2. 電源線、アース線、センサ信号線の挿入部は、反射板との当たりを防ぐため小さく曲げ、端子台に押しつけてください。（第9図）



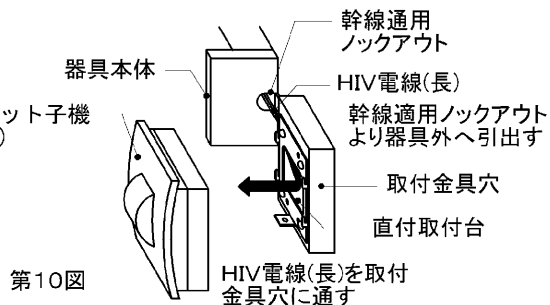
第8図



第9図

- ⑧ 器具内に引込んだHIV電線（チャ）を反対側幹線通用ノックアウトより器具外に引き出し、取付金具の穴に通します。（第10図）

人感センサユニット子機 DF-20209Y (別売)



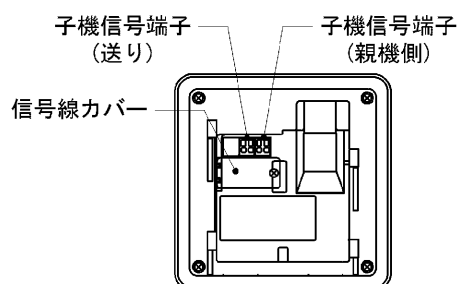
第10図

- ⑨ 人感センサーユニットDF-20209Y（別売）の裏面の信号線カバーをはずし、接続端子（親機）に接続し信号線カバーを取り付けます。（第11図）詳しくは人感センサユニット親機DF-20209Y取扱説明書■取り付け方と配線をご覧ください。

不備がありますと、誤動作の原因となります。

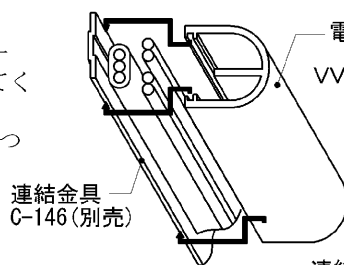
人感センサユニットDF-20209Y（別売）を取付金具にねじで確実に固定します。

不備がありますと、落下の原因となります。

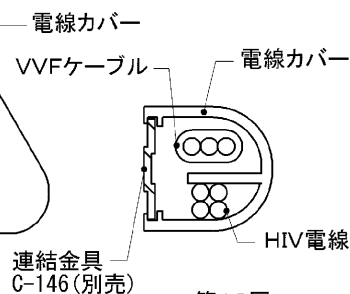


第11図

- ⑩ 人感センサ連結金具C-146（別売）に付属の電線カバーを連結金具C-146（別売）に確実にはめ込み取り付けてください。（第12図）
電線カバー内のVVFケーブル、HIV電線の配置については（第13図）の通り行ってください。



第12図



第13図

5 器具本体の取り付け

- ① ツマミラッチを90°回転させて反射板を本体からはずしてください。
② 付属のブッシュをはめ込み電源線、アース線を通してください。
③ 本体を取付ボルトに確実に取り付けてください。
(取付けボルトはW3/8またはM10を使用し座金を必ず入れてください。)

不備がありますと、器具落下の原因となります。

- ④ 電源線、アース線を端子台に確実に差し込んでください。（第14図）
リリースする場合は、必ずリリースボタンをドライバーで押し込んで線を引き抜いてください。

不完全な場合とリリースボタン以外を押した場合は、接続不良による発熱、火災、感電の原因となります。

端子台の容量は20Aです。

容量を超えると発熱、火災の原因になります。

- ⑤ 電源線、アース線の挿入部は、反射板との当たりを防ぐため小さく曲げ、端子台に押しつけてください。（第15図）

- ⑥ 蓄電池のコネクターを確実に差し込んでください。

- ⑦ 反射板を本体にツマミラッチを90°回転させて取り付けてください。（第16図）

不備がありますと、器具落下の原因となります。

- ⑧ ランプの口金ピンをソケットに差し込んだ後90°回転させ、ランプを確実に取り付けてください。

※ ランプを交換する際は、パネルをはずして行ってください。

- ⑨ パネル・カバーを下記の方法にしたがって確実に取り付けてください。

●パネル・カバーの取り付けかた FHTS-41860K、FHTS-41861Kの場合

- (1) パネルは斜め上方より本体の角穴へアームを差し込む（第17図）
(2) 本体側面にて付属の化粧ねじで確実にパネルを固定してください。（第16図）

FHTS-41861Kの場合

パネルは短い方が上になるように取り付けてください。（第18図）

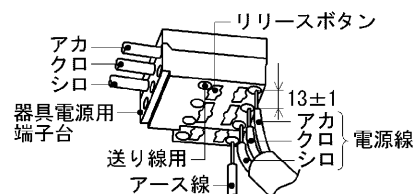
不備がありますと、器具落下の原因となります。

FHTS-41862Kの場合

- (1) カバー取付具を本体の角穴へ差し込む（第19図）
(注) カバー取付具には取付方向性があります。化粧ねじ受け穴側が外側になるように取り付けてください。
(2) カバーを器具本体に取り付け、カバーを本体に押し付けながら付属の化粧ねじで確実に取り付けてください。（第20図）

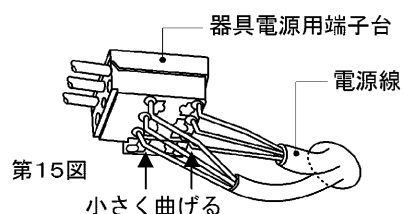
●パネル・カバーのはずしかた

- (1) 本体の側面の化粧ねじをはずす。
(2) パネルを手前に引いてはずしてください。



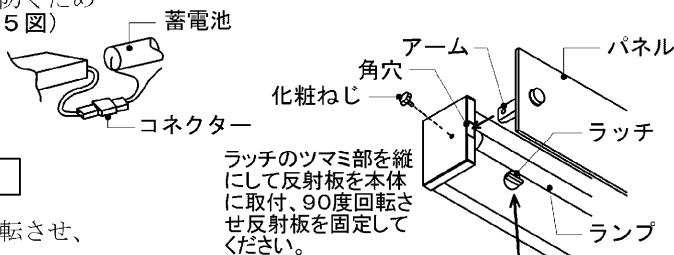
第14図

↑押しつける
(適合電線φ1.6, φ2.0 単線)



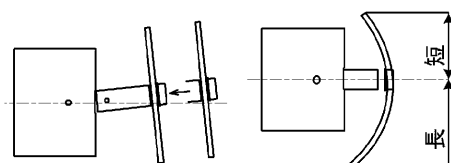
第15図

小さく曲げる



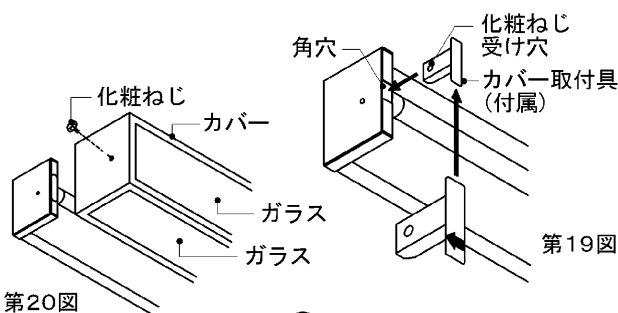
第16図

90度回転

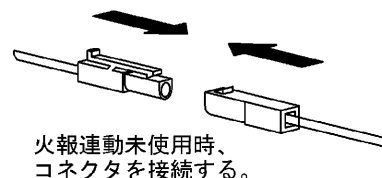


第17図

第18図



第20図

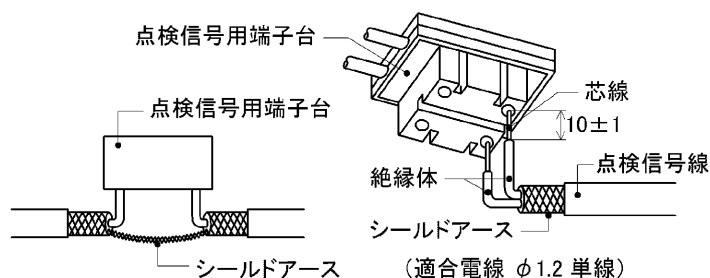


6 火報連動について

火報連動を行う場合は、信号装置からの信号線(AC100V)を火災信号端子台に挿し込んでください。
火報連動を行わない場合は、コネクターを接続してください。

7 点検信号線の接続

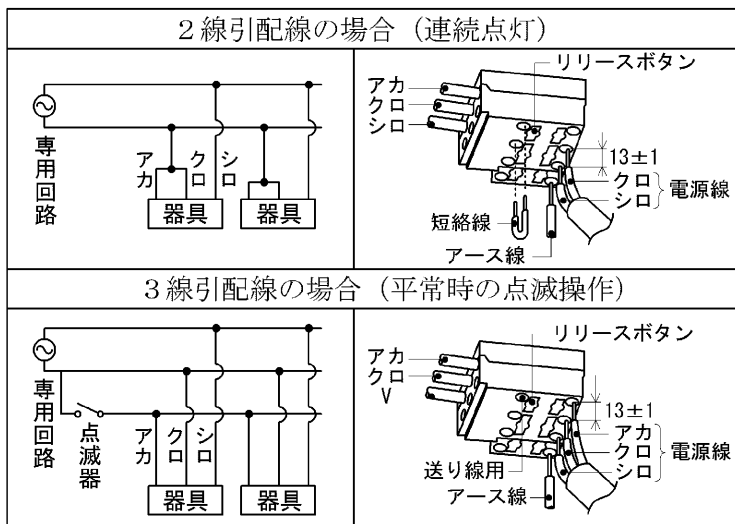
- 自動点検装置を使用する場合は、点検信号用端子台に接続してください。
- 点検信号線はシールド線CPEVSを使用してください。シールドアースは自動点検装置のアース端子に接続し、器具には接触させないように絶縁処理してください。点検信号線を送り配線する場合はシールドアースを接続してください。



■配線方法

- 電源は必ず単相2線から配線してください。単相3線・3相3線からの配線は部品を焼損することがあります。
- 電源回路は必ず分電盤からの専用回路とし、分電盤と器具の間には点滅器を設けないでください。

(適合線φ1.6, φ2.0 単線)



■モニターランプ表示内容

[正常状態]		[異常状態]		
ランプモニター (アカ)	消灯	モニターランプ 点灯状態	考えられる原因	対処方法
充電モニター (ミドリ)	点灯	ランプ モニター (アカ)	ランプが破損している	ランプ交換して点検スイッチを2秒以上引いてください。
			ランプがはずれている	ランプを取付けて点検スイッチを引いてください。
			蓄電池の充電不足	AC100Vを通电してください。ランプモニターが消灯すればランプは正常です。
[アドレス未設定] (制御装置接続時)		点滅	ランプ寿命	ランプ交換して点検スイッチを2秒以上引いてください。
ランプモニター 充電モニター	同期 点滅	充電 モニター (ミドリ)	蓄電池コネクタがはずれている	コネクタを接続してください。
			電源線が接続されていない	電源線を正しく接続してください。
			蓄電池の寿命	新しい蓄電池と交換してください。
[自動点検中]				
ランプモニター 充電モニター	交互 点滅			

注1) ランプ交換後、点検スイッチを2秒以上引かないと正常状態に復帰しません。

注2) 点検の際には48時間以上充電した後、自動点検機能により点検を行うか20分(60分)以上電源を遮断してください。点検の結果、充電モニターが点滅した場合は必ず蓄電池を交換してください。
また、蓄電池をはずした場合には点滅動作がリセットされますのでご注意ください。

注3) 蓄電池交換の際は、通電状態で交換してください。電源遮断状態で交換すると、モニターの点滅が停止しない場合があります。

■器具のアドレス設定

自動点検制御装置との通信を行なう上で器具のアドレス設定が必要となります。

予め用意されている系統図に従って個別アドレスを正しく設定してください。

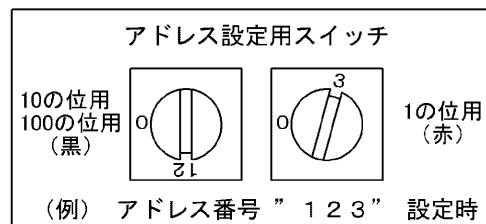
- ・アドレス設定はユニットのアドレス設定スイッチで行います。
- ・128台まで設定可能です。

(注意) アドレスの設定を変更した場合には、10秒で確定します。
出荷時は番号 0 です。(アドレス未設定)

設定が不完全な場合、通信異常の原因となります。

ユニット

<アドレス設定スイッチ>



■仕様

形名		FHTS-41850-PD9
平常時	電源	交流50Hzまたは60Hz 100V - 242V
	入力電流 消費電力	0.51A - 0.22A 49W - 48W
	光源	FHF32EX-N×1
非常時	電源	密閉形 Ni-Cd 蓄電池 2-3NR-CY-LE-N 7.2V 3000mAh
	光源	FHF32EX-N×1
	非常時光束	定格出力3520 lmの60%点灯です。

修理・お取り扱い・お手入れについてご不明な点は

お買い上げの販売店へご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、下記の窓口へ

東芝ライテック照明ご相談センター

0120-66-1048 (通話料：無料)

受付時間：365日 9:00~20:00

携帯電話・PHSなど 046-862-2772 (通話料：有料)
FAX 0570-000-661 (通話料：有料)

・お客様からご提供いただいた個人情報、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
・利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社に、お客様の個人情報を提供する場合があります。

日本国内専用
Use only in Japan

保証について

- ・保証期間は、**商品お買い上げ日より1年間です。**但し、LED器具の点灯装置、蛍光灯器具・HID器具の安定器(インバータバラスト含む)については3年間です。
- ・セード、グローブ、リモコン送信器は保証対象とし、ランプ、点灯管、電池などの消耗品は対象外とさせていただきます。

東芝ライテック株式会社 施設・屋外照明部 施設照明担当 〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13(南品川JNビル) TEL (03) 5479-1071
FAX (03) 5479-3393

お客様はお読みになったあとも必ず保管してください。

001E957G

点検のポイント

- ① 外観チェック
(1) 充電モニターが点灯していますか。
(2) 光源、表示板などは汚れていませんか。
- ② 切替動作チェック
点検スイッチを引いてください。
非常点灯に切り替わりますか。
- ③ 性能チェック
点灯持続時間
非常灯点灯切替後30分間点灯が持続しますか。

注意事項

- ① 電源は昼夜連続給電願います。
- ② 3ヶ月に1度は定期的に点検し、点検カードに記録願います。
- ③ 点灯持続時間のチェックを行い、性能が満足しないときは器具に内蔵されている同一形名の蓄電池と交換してください。
※交換した古い蓄電池はすてないで買い求め先または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにお渡しください。
- ④ 万が一うまく動作しない場合、原因がわからない時には買い求め先または最寄りの東芝ライテック照明ご相談センターにご連絡ください。

●自己点検開始方法

- ※ 自己点検モードに切り替える前に次の項目を確認してください。
 下記①～③を満たさない場合は自己点検モードには切り替わりません。
 条件を満たしている場合は規定時間以上の電源遮断時にも蓄電池の寿命を判定します。
- ①充電モニター(緑)が点灯している。(蓄電池の充電がされている)
 - ②ランプモニター(赤)が消灯している。(ランプが正常に接続されている)
 - ③操作前に48時間以上の充電がされている。

▽LEDモニター表示図式例

点灯	
消灯	
点滅	

スタンバイモードとは・・・	電源通電時に点検スイッチを5秒引き続けた後のLEDモニター(赤・緑)が同時点滅している状態です。5秒間継続します。
自己点検モードとは・・・	スタンバイモード(LEDモニター同時点滅)時に再度点検スイッチを引くと自己点検モードに入ります。点検スイッチから手を離しても非常点灯(LEDモニター消灯)を継続している状態です。

	作業内容	冷陰極ランプ	LEDモニター表示		備考
			充電(緑)	ランプ(赤)	
1	点検スイッチを5秒間引き続けてください。(スタンバイモードに移行します。)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	・点検スイッチを引くと、充電モニターは消灯しますが、5秒引き続けると充電モニターとランプモニターが同時に点滅を開始し、スタンバイモードに入ったことをお知らせします。
2	スタンバイモードに入ったら点検スイッチから手を離してください。	(スイッチを引いたままの状態)	非常点灯	点滅	・スタンバイモードは約5秒間です。自己点検モードに移行する前にスタンバイモードが解除された場合は1の操作からやり直してください。 ・スイッチを引いたまま5秒経過した場合もスタンバイモードが解除されます。
		(スイッチを解除した状態)	非常点灯	点滅	
3	スタンバイモードの時に再度点検スイッチを引きます。(自己点検開始)	非常点灯	消灯 ●	消灯 ●	
4	規定時間経過、又は蓄電池寿命を判定すると自動的に復帰します。復帰後充電モニターを確認してください。	常用点灯	点灯	消灯 ●	・充電モニター(緑)が点滅している場合は蓄電池容量が減少しています。新しいものと交換してください。

- ※ 次の場合は自己点検モードが解除されます。この場合は正しい判定ができませんので、蓄電池の寿命判定は必ず自動的に復帰した後に充電モニターを確認してください。
- ・自己点検モードのときに点検スイッチを引いた場合。
 - ・自己点検モードのときに停電(電源遮断)が発生した場合。

自己点検が動作しない場合は・・・

